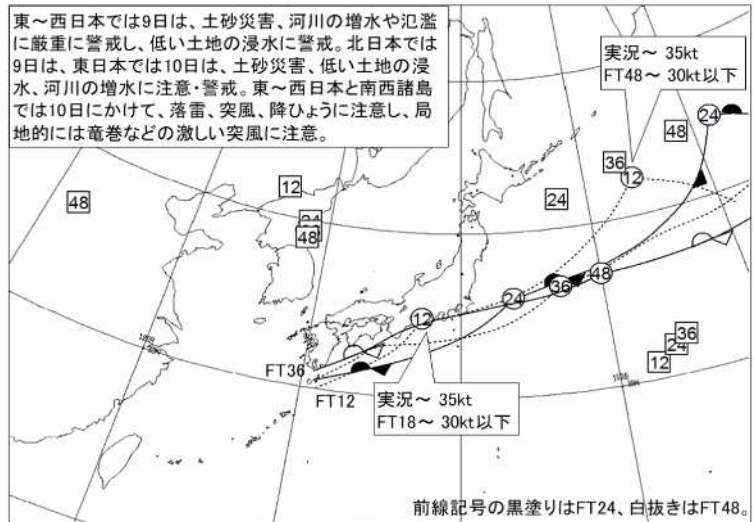


1. 実況上の着目点

① 前線が西日本から東日本太平洋側を通り、日本の東へのびている。熱帯低気圧から変わった前線上の低気圧が、伊勢湾付近を東北東進。前線や低気圧に向かう下層暖湿気(9日9時の潮岬の高層観測では850hPa相当温位 354Kを観測)の影響で、西～東日本では、前線近傍から北側にかけて、非常に激しい雨を解析し、発雷を検知。

② 華北の高気圧が南東へ移動。500hPa 5880m以上の大気中層の高気圧が日本の東から華中を覆い、地上では太平洋高気圧が日本のはるか東から日本の南へ張り出している。高気圧と前線の間で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、しけている所がある。また、500hPa 5820m付近の正渦度極大域が南西諸島付近を西進し、周辺で対流雲が発生し、激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の前線は10日夜にかけて本州の南岸付近に停滞し、その後、北上する。1項①の前線上の低気圧は、11日朝にかけて、本州の南岸付近を通り、日本の東へ東北東進する。南西諸島では10日にかけて、気圧の谷がのびて降水が広がる。低気圧や前線、気圧の谷に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い非常に激しい雨の降る所がある。これまでの大雨で地盤が緩み、少ない雨量でも土砂災害の危険性が高まる所がある。東海地方では9日は、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があることに留意。東～西日本では9日は、土砂災害、河川の増水や氾濫に厳重に警戒し、低い土地の浸水に警戒。北日本では9日は、東日本では10日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。東～西日本と南西諸島では10日にかけて、落雷、突風、降ひょうに注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。1項②の華北の高気圧は、9日夜までに不明瞭化。9日夜までに、朝鮮半島付近で高気圧が発生し、11日朝にかけて、南東へ移動する。高気圧と前線との間で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、しける所がある。東～西日本では10日にかけて、強風、高波に注意。

② 11日は、2項①の本州の南岸の前線が次第に北上し降水が広がる。前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。東～西日本では11日は、落雷、突風、降ひょうに注意し、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に留意。また、11日は、オホーツク海を東進する低気圧付近から気圧の谷がのびて、気圧の傾きが急となり、やや強い風が吹き、波が高くなる所がある。北海道地方では11日は、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(18時からの24時間)：関東甲信・東海 100mm。②波浪(明日まで)：九州北部5、中国4、東北・関東・伊豆諸島・北陸・東海・近畿 3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 「大雨・氾濫・落雷」を17時頃に発表予定。